

黒人神学

Black Theology

時代背景(1)

※ M.L. キング, Jr. (1929-1968)

- ◆ 公民権運動の指導者
- ◆ 1955年、モンゴメリーのバス・ボイコット運動を指導。
- ◆ 1959年、インドをおとずれ、ガンディーが追求した大衆的非暴力抵抗運動に影響を受ける。
- ◆ 1963年、ワシントン大行進「私には夢がある。いつかジョージアの赤い丘で奴隷の子孫と奴隷所有者の子孫が兄弟として同じテーブルにつく夢が」
- ◆ 1964年、ノーベル平和賞受賞。
- ◆ 1968年、暗殺される。

2

時代背景(2)

※ マルコムX(1925-1965)

- ◆ キング牧師らの非暴力主義による黒人運動に反対し、暴力による権利獲得をめざした。
- ◆ 1946年、強盗罪で刑務所におくられたマルコムは、服役中、ネーション・オブ・イスラムの教えに触れる。
- ◆ 1960年代初頭、ネーション・オブ・イスラムのもっとも有名なスポークスマンとなる。
- ◆ 1964年、脱退。メッカを巡礼。
- ◆ 1965年、暗殺される。

3

黒人神学の形成

※ ジェームズ・H・コーン(1938-)

- ◆ 人種隔離政策の中で成長する。黒人を差別する白人たちが同じ神を信じていることへの疑問。
- ◆ 1950~60年代の公民権運動の影響を受ける。
- ◆ 白人中心の抽象的神学を批判。

4

コーンの代表的著作

- ※ *Black Theology and Black Power*, 1969.
 - ◆ 『イエスと黒人革命』新教出版社、1971年。
- ※ *A Black Theology of Liberation*, 1970.
 - ◆ 『解放の神学——黒人神学の展開』新教出版社、1973年。
- ※ *The Spirituals and the Blues*, 1972.
 - ◆ 『黒人霊歌とブルース——アメリカ黒人の信仰と神学』新教出版社、1983年。
- ※ *God of the Oppressed*, 1975.
 - ◆ 『抑圧された者の神』新教出版社、1976年。
- ※ *Martin & Malcom & America: A Dream or a Nightmare*, 1991.
 - ◆ 『マーティンとマルコム、そしてアメリカ—夢か悪夢か』日本基督教団出版局、1996年。

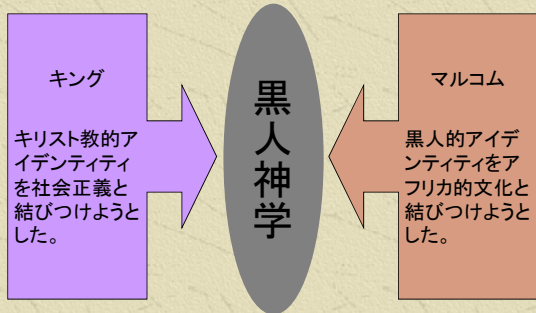
5

コーンの神学の特徴

- ※ キングの **integrationism**(統合主義)とマルコムの **nationalism**(民族主義)を相補的にとらえようとしている。
- ※ キングは、かつて人種隔離制度を内面から支えていた個人主義的贖罪信仰を、地上のもっとも小さい者たちの連帯性の戦いへと解放した。
- ※ マルコムは黒人的アイデンティティの重要性を教えてくれた。

6

黒人神学の特徴



7

『解放の神学——黒人神学の展開』から(1)

- ✳ 白人は死の現実から逃れようとする。彼ら(黒人)は、白人を見るたびに死を見ているのである。
- ✳ 本来の終末論的展望は歴史的現在に根拠を持たなければならない。現在の秩序に挑戦しないような終末論的展望では不十分である。
- ✳ われわれ自身の子供たち苦痛や苦悩を見捨てたままにしなければならないとしたら、永遠の生命でさえ何の益があるのか。

8

『解放の神学——黒人神学の展開』から(2)

- ✳ モルトマンの分析は黒人神学の関心と矛盾しない。
- ✳ 黒人の関心を天国に向けることは白人奴隷主に起因する。しかし、天国はもはや、現実の不正義を受容するためには用いられない。天国を信じるということは、地上の地獄を受け入れることを拒絶することである。

9

コーン以降の黒人神学

- ✳ 第二世代
 - ◆ コーネル・ウェスト(Cornel West): 社会科学的分析を加える。
- ✳ 第三世代
 - ◆ ジェームズ・H・エヴァンス(James H. Evans): 本格的な組織神学を展開。

10

参考文献

- ✳ 梶原寿『解放の神学』清水書院、1997年。
 - ◆ 主として黒人神学を扱っている。
- ✳ コーネル・ウェスト『人種の問題——アメリカ民主主義の危機と再生』(山下慶親訳)新教出版社、2008年。

11